

安全を基礎に絆を深め 未来を切り拓こう

JR西労組は、7月18日(木)から19日(金)の2日間、ホテルクラシア大阪ベイにおいて、第36回定期中央本部大会を開催した。

全体質疑

北陸新幹線敦賀開業

中長期を見据えた人事運用が重要

金沢地方本部 守山代議員



勝ち取ることで、中央闘争委員会の奮闘に感謝する。

能登半島地震について、JR連合、中央本部をはじめ各地方本部の皆様には、ボランティア活動に参加いただき感謝する。

●鉄道用地外からの草木の伐採等は、安全安定輸送確保のための予防措置が講じられないなど、現場は苦慮している。JR連合などを通じて議論をお願いする。

●24春闘は、様々な成果を

経営幹部からグループ組合員までが 危機感を共有する必要

米子地方本部 亀山代議員

●新たな鉄道安全考動計画をスタートしたが、痛ましい死亡労災や重大労災、危険な事象が連続して発生。経営幹部から現場組合員までが同じ危機感を共有し、JR西日本グループ全体で、安全に取り組む必要がある。

●昨年度、鉄道部の見直し、保線区の大規模化・機械建築区の業務執行体制の見直しなど、組合員の働き方今後のキャリアステップに関わる大きな施策提案があった。関係支部分会、中国協議会中央本部とも連携しながら対応してきた。

●社会変容による施策の必要性を理解しているが、より組合員と向き合い、議論を深めていく中で、施策の振り返りを行う。

●2024春闘では地上職に光が当たり、改めて感謝する。

●旧支社エリアの概念はなくなりつつあり、エリア手当の改善をお願いする。

●業務課題について、コロナ禍以降、職場の集約や大単位化が行われ、会社施策のスピードが速い。振り返りを行い、業務が逼迫していないか、時間外労働が増えているか等、検証も必要である。

●福知山市長選挙において、厳しい選挙戦のなか、JR西労組議員団会議所属議員の大橋天氏が3期目当選を果たした。中央本部の支援、京都地本の皆様方に改めて感謝申し上げる。

●23年前の朝霧(明石間)における触車死亡労災を忘れることなく、1月24日に事故現場

安全性とサービス維持には 心身の余裕が不可欠

神戸地方本部 石原代議員

●NS制度が終了し、新たなキャリアアップ制度の検討が進められている。エリア間の格差を感じさせない制度となるよう議論を行う必要がある。

●2024春闘は、作業責任者手当をはじめとした、鉄道

●2024春闘では地上職の待遇改善、ベースアップ、各種手当等の増額新設等、改めて感謝申し上げる。神戸地本念願の一級建築士に対する資格者手当や、車両・電気系統の手当拡充に、感謝の声が上がっている。

●追給戻入事象が後を絶たない。賃金制度見直しに向けた議論をお願いする。

●施策が各系統において、矢継ぎ早に実施されることで、将来のあり方が見えず、組合員は不安と不満を抱いている。

●設備投資は、現場の声が反映される



特有の特殊な業務に従事する多くの組合員に光を当てていただき感謝する。 ●2025春闘においては、エリア手当の見直しについて踏み込んだ議論を要請する。統括本部化され、働いている場所と生活をする場所の整合性も取れなくなっており、エリア手当を基本給(組み込むという形で要求していただきたい)。 ●米子駅が新たに開業し、新型やくもがデビューした。関係議員や地域と取り組んで



と、会社への帰属意識も高まるので、PCを整備し、操作に慣れたうえでアプリやシステムの導入を図るべきではないか。 ●新たなキャリアステップについては、「資格級に制限されない」「自ら描くキャリア実現に向けて挑戦を後押しする」とあり、社員一人一人への意識付けや説明に相当苦勞することが予想される。 ●管理者層が認識を共有できる周知期間を設けるとともに、系統や職場によって要員需給が足枷となること、無いうようにしていただきたい。 ●共済加入が年々難しくなり、低調となっている。相互扶助の精神が失われつつあり、何とかあの手の手で説明し、必死で加入していただいているというのが現状である。 ●来年4月から、交運共済総合共済とJR連合基本制度が1,000円の掛け金で一本化されることは、新規加入者の負担軽減にもなり大歓迎だが、退職するまで加入し続けやすく、中途採用の方々にもメリットを感じることが出来る内容をご検討いただきたい。 ●来年2月のボウリング大会が、2025春闘への起爆剤となるよう、準備を進める。



第36回定期中央本部大会(発言集約)